

# ほなみ通信

第97号

2022年12月8日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

祝

百歳



祝

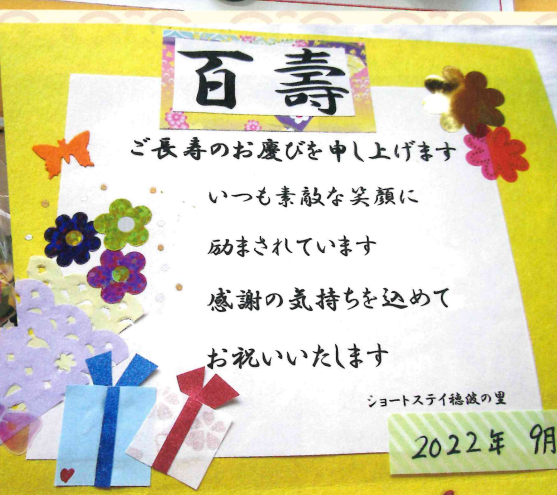
百歳

祝

百歳



長寿の秘訣は好き嫌いなく食べること



ご長寿のお慶びを申し上げます

いつも素敵な笑顔に

励まされています

感謝の気持ちを込めて

お祝いをいたします

ショートステイ穂波の里

2022年 9月



手作りのカードと胸飾りで  
お祝いしました



特別養護老人ホーム穂波の里

中学生職場体験

コロナ禍で中止になっていた中学生の職場体験が復活しました。以前は3、4か所の近隣中学校が総合的学習の一環として職場体験に来ていました。

地元坂井輪中学校の地域コーデイネーターより「今年は10月18日、19日に行いますのでよろしくお願ひします。施設は穂波の里しか受け入れてもらえないんです」との声に後押しされ、法人内で5事業所、計10名の中学2年生を受け入れました。



当日は事業所紹介や見学、認知症学習をしてから各事業所に行き、緊張しながらもご利用者の話を真面目に聞いていました。ご利用者も14歳の子供たちの可愛さから笑顔でどんどん話しかけ、微笑ましい雰囲気にも包まれていました。

後日、届いた礼状には、「グループホームでは介護がメインではなく、自分でできる事は自分でしてもらい、できない事を手伝っていることを学んだ」「介護職にはいくつかの種類があり、ケアハウスは利用者の生活をサポートする仕事だとわかった」「職員が利用者の方に積極的に話しかけ、年の離れた

ケアハウス穂波の里

新たな買い物支援 移動スーパーとくし丸

ケアハウス穂波の里は最寄りに商業施設はあるものの、徒歩で行くには遠いため、買い物には車やバス等の移動手段が必要な場所にあります。

高齢者にとって買い物は自分の目で確かめて品定めをしたり、ご自身で売っている物を見て何を作ろうかと考えたりすることが楽しみのも一つでもあります。ケアハウスでは、週2回原信やイオンに送迎車を運行しています。ケアハウスの入居者も高齢化が進み、ご自分で実際に品物を見ながら買い物をしたいが、広いスーパー内を歩くのが負担、体力的に難しいから行けない、と言われた方々へは個別外出や職員が代行して買い物を行っております。買い物代行も入居者を支える重要な仕事ではありますが、先に述べたように買い物はご自身の目で見て選んで購入することが大切です。体力的に厳しい、広いスーパーを歩くことができないとの声を受け、職員間で何かできないかと検討しました。そ

こで考えついたのが、スーパーに行くのではなく、移動スーパーに来てもらえないかとの発想から、移動スーパーとくし丸（以下、とくし丸）本部と交渉し、今年8月より毎週水・土曜日の週2回に来ていただくことになりました。

毎週水・土曜日の午前10時過ぎ、とくし丸がBGMを奏でながら穂波の里の敷地内に入り、ケアハウスの玄関に到着すると、ケアハウスグループホームの入居者の方々は待っていましたとばかりにとくし丸を囲み商品を見ていきます。気に入った商品をカゴに入れ店員に支払いますが、毎回精算待ちの列ができます。精算を待っている間にも「あなたは何買ったの？」「その果物美味しそう」「この前買った美味しかったので今日も買った。あなたも食べてみて」等々、会話に花が咲き井戸端会議が始まります。その様子を職員は転倒等がないように見守ります。買い物中の皆さんの嬉しそうなお表情がとても印象的です。

現在では買い物外出と合わせて、週4回は買い物をする事ができます。今まで職員に買い物代行されていた方もとくし丸が来ることで、また楽しみを持って買い物をする事ができるようにな

人とても会話を続けていてすごいのと思った」「消毒 掃除は大変だったけど、たくさんの人にありがとう言ってもらえうれしかった」等、各事業所の役割や職員の援助について学んでもらえたと感じました。将来の職業選択の一つとして福祉に関心を持ってくれるとなお嬉しく思います。

(施設長 古藤悦子)



りました。ケアハウスにとって、「とくし丸」は貴重な存在となっています。

(施設長 内田)



特養 道場山穂波の里

コロナ疲れを吹き飛ばす「黒埼太鼓」の響き

R4. 7. 20



第3回洪水想定避難訓練

洪水想定避難訓練は令和2年度より年1回実施しています。今年度も法人の洪水避難計画を基に、避難準備体制を含めた訓練を9月28日に実施することにしました。今回は新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、入居者や利用者の他フロア間の移動ができず、一部避難場所を見直すことになりました。

訓練当日、行政より氾濫警戒情報及び高齢者等避難のFAXが入った想定で訓練を開始しました。職員はそれぞれの避難行動計画に基づいてお互いに声を掛け合い入居者、利用者の避難等を進め、20分程で避難を完了しました。

訓練終了後の反省会で今後の課題として、「災害の恐れが高い場合のご家族へのデイサービス利用の意向や、当日の運営体制」「認知症の方の避難をどう促していくか」「職員体制が手薄になる夜間帯での体制」「避難前の情報収集、準備体制をふまえた訓練への働きかけができていなかった」

等の意見が寄せられました。今回の訓練を通じ見えた課題をふまえ、今後の洪水想定避難訓練に反映させていきたいと思ひます。

(防火管理者 武田)

管理者交代のあいさつ

デイサービスセンター穂波の里



管理者 植木 聡明

令和4年7月1日からシヨートステイ穂波の里より、デイサービスセンター穂波の里に管理者として異動してきました。在宅生活を支える上では同じだと思えますので、少しでも皆様のお力になれるように精一杯支援していきたいと思っております。

デイサービスでは季節に合わせた行事や体操、レクリエーション等をご用意しております。まずはお試しで体験利用も可能です。皆様のご利用をお待ちしております。

シヨートステイ穂波の里



管理者 中野 園子

7月からシヨートステイ穂波の里の管理者として着任いたしました。それまでは同じくシヨートス

地域包括支援センター坂井輪

認知症家族がつながる場 集まるうづ会開催

10月22日(土)道場山穂波の里4階の多目的ホールを会場に、認知症の方を介護されているご家族、また過去に認知症の方を介護された経験がある方、認知症に関心がある方、そこに専門職が加わり、気軽に話ができつながる場「集まるうづ会」を開催しました。

令和2年2月22日の新型コロナウイルス感染者が出始めた頃に、新潟県労働金庫新潟西支店様の旧ローンプラザを会場にお借りし、



令和2年2月22日 第一回目



感染防止対策 実施中!

テイ穂波の里で介護職員として18年間、ご利用者の食事や入浴、排泄、移乗など日常生活動作全般の見守りや身体状態に応じて介助させていたっていました。シヨートステイ利用後少しでも体調良くなり、元気にご自宅に帰っていただくよう支援していくことが大切だと先輩方から教わり、心掛けてきました。立場は変わりましたが、ご利用者の「在宅生活を支える」に向かつて支援させていただきながら、地域に根差した、信頼してもらえよう事業所を目指していきたくと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



令和4年10月22日



令和4年10月22日

今回の先駆けとなる集まりを開催していましたが、その後感染が拡大し、2回目の開催ができずにおりました。1回目は16名の参加で

道場山らんち亭

一年半ぶり再開!

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年3月より活動を休止しておりました「道場山らんち亭」ですが、10月7日より、アクリル板を設置し、向かい合わないよう座席を配置する等、感染防止対策を実施した上で、およそ一年半ぶりに活動を再開しています。

「らんち亭」は、一人暮らし等男性高齢者の食の支援、交流を目的とした集まりです。毎週金曜日、道場山穂波の里の厨房で調理された昼食を提供しています。配膳や後片付け等、ボランティアの女性陣4名の方々が週替わりでご協力いただくことで成り立っているものです。食事代は400円、コーヒーを希望される方はプラス100円、ジュースは500円で美味しい食事と美味しいコーヒーを食べたり飲んだりできます。

活動休止中は、何度も「いつ再開になりますか?」と問い合わせをいただいております。介護予防体操等は何度も休止を繰り返しながらも、再開しておりました。

したが、今回は前回を上回る21名の参加がありました。

2度目の参加の坂井調剤薬局様に加え、新たに福祉用具オレンジスマイル様にもご協力いただきました。また、第一生命様が、認知症サポーター養成講座を開催されたご縁から、認知症とのかわりを通して地域貢献をされたいと3名の方が参加してくださいました。まだ新型コロナウイルスの感染の心配がある中での開催でしたので、広く周知することはできませんでしたが、現在、認知症もしくは認知症の疑いのあるご家族を介護されている方でサービス等ご利用されていない、また利用されている方も介護の負担が大きいと思われる方に声をかけさせていただきました。認知症の方を介護されたことがあるご家族にも、介護者の良き先輩として共感できたり、経験を伝えてもらいたいと考えて協力をお願いしました。実際に話を聞いてみますと、認知症の疑いのある配偶者との生活にストレスを感じながらも本人の拒否が強く、受診やサービスの利用を勧めることができない、そのご苦労を一人で抱え込んでおられる方、また、認知症の配偶者を介護された経験をもつある方



(包括坂井輪 梁取)

「うたごえ広場」もなんとか再開にこぎつけ、あと残すは「らんち亭」のみと、皆様首を長くして待っていてくださいました。再開にあたっては、様々な課題がありました。アクリル板を設置し、マスクを着用しての会話、果たして会話が成り立つのだろうか、また、仮に食事中は黙食とした場合、そこまでして活動を再開する意味があるのだろうか、配膳や下膳の際に感染防止対策の徹底と言っても、どこまでやる必要があるのだろうか等々。この間、感染状況も波があり、感染状況が少し落ち着いて再開を悩んでいるうちにまた次の感染拡大の波が来るという、その繰り返しでした。そして、ようやく10月に再開することができ、参加者の皆様から喜びの声をいただき私も嬉しい限りです。最近になって、新しい方一名が加わり四名となりました。まだまだ少ない人数ではありますが、お一人一人にとって「らんち亭」がかけがえない居場所であり続けられるよう努めていきたいと思っております。

は、認知症であることをオープンにすることで地域の方の見守りの協力を得ることにつながる、他にも、過去に親御さんを介護したことのあるご家族と現在親御さんを介護されているご家族とを顔合わせしたところ、連絡先を交換、その後シヨートメールでやりとりされ、本音を聞いてもらうことで少し楽になったなど、つながりの重要性を改めて痛感しています。反省点も多々あります。専門職の方が最初から最後まで同じテーブルで話をされていたので、聞きたいことがあっても気軽に聞ける環境になかったこと、自己紹介があったものの何の専門職か名札が分かりにくかったこと、専門職の方には専門性を活かす機会を十分に持てなかつたなどが挙げられます。このような場は本来常設でいつでも気軽にに行ける場であることが理想ではありますが、会場や人員の確保、感染防止対策等を徹底しながらですと、現状では毎月一回の開催も厳しい状況です。せめて2〜3ヶ月に一回の開催を目指して、内容もより良いものに修正していけるよう努力していきたいと思っております。





ありがとうございました



坂井輪診療所健康友の会  
あみものサークル様より  
膝かけをご寄附いただきました



祝敬老の日

# グループホーム 食の秋・食三昧

敬老の日はピザパーティー



「yayaya移動ラーメン」  
参上!

選ぶ楽しみパンバイキング

